

堺市指定管理者評価表

(評価対象期間 : 令和5年4月1日 から 令和6年3月31日 まで)

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市教育文化センター	
(2) 施設の設置目的	
市民に生涯学習と文化活動の場を提供し、教育に関する研究及び教育関係職員の研修等を行うことにより、文化の発展と教育の振興に資するため	
(3) 所管部局	
教育委員会事務局 教育センター 企画相談課	
(4) 指定管理者名	
JTBCコミュニケーションデザイングループ (株式会社JTBCコミュニケーションデザイン、南海ビルサービス株式会社、株式会社東急コミュニティー)	
(5) 指定期間	
令和2年4月1日から令和7年3月31日まで(5年間)	
(6) 主な事業	
・ 施設等貸出業務(中文化会館) ・ プラネタリウム室・天体観測室・科学展示コーナー運営業務 ・ 駐車場・駐輪場の管理運営業務 ・ 利用料金等の収受業務 ・ 施設利用案内業務、情報コーナー等に関する業務 ・ 施設等の維持管理業務(中文化会館・プラネタリウム・教育センター・中図書館等) ・ 自主事業(文化芸術振興事業及び生涯学習推進事業等) ・ 市への協力及びその他の業務	
(7) 施設分類	(8) 有料施設の有無
文化・教育施設	有 (利用料金制)
(9) 選定方法(公募・非公募の別)	
公募	
(10) 主な利用者	(11) 市内における受益対象者数
市民・教職員	不特定多数
(12) 近隣の類似施設	
無	

2 管理運営状況

(1) 適正な管理運営の確保

ア 取組状況

平等利用、安全確保、個人情報の保護等	・危機管理マニュアルの整備、避難訓練・指定避難所開設訓練、防災士監修の災害想定訓練を実施し利用者の安全確保に努めた。 ・個人情報保護研修を指定管理者構成企業全体で実施し、全職員のコンプライアンス意識の向上を図った。
職員配置、人材育成、施設の維持管理等	・人権研修、マナー研修、コンプライアンス研修を実施した。 ・点検管理基準に基づき保守点検を行った。突発的に発生した不具合については優先的に対応した。
施設の設置目的に沿った事業の実施	・施設を利用して活動するサークルへの貸室事業、貸室を活用した講座事業を継続して開催した。また、作品展を実施し、サークルの発表の場を設定することで創作活動の意欲を促進し、活動継続を促した。 ・教育関係職員の研修等をプラネタリウム施設等の活用などにより、教育センターと連携し実施した。
その他特筆すべき取組	・複合施設内での催事が重なり駐車場の満車が予想される場合や、駐車場満車時は、近隣駐車場の案内地図を配布し満車緩和に努めた。

イ 市による状況分析

避難訓練や各種研修を実施し、利用者の安全や満足度向上につながるようスタッフの人材育成を行い、サークル活動意欲を促進し、継続した貸室利用による安定的な施設運営に取り組んだ。

(2) 利用者サービスの向上

ア 利用状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
指定管理者名	JTBコミュニケーションデザイングループ	JTBコミュニケーションデザイングループ	JTBコミュニケーションデザイングループ	JTBコミュニケーションデザイングループ	JTBコミュニケーションデザイングループ
利用者数(単位:人)	74,239	83,888	142,761	165,210	—
稼働率(単位:%)	42.2	47.6	57.2	56.0	—
利用者満足度(単位:%)	97.0	98.8	96.4	97.7	—

イ 取組状況

サービス向上、利用促進、自主事業	・エントランスに掲示板を設置し利用者が希望した場合は催事案内を掲示する対応をとった。 ・人気の高い科学講座の講座回数を増やして実施した。 ・利用者に堺市施設予約システムの利用者登録を促した。
意見・苦情・要望等への対応	・什器の配置により原状回復に時間を要するとの意見には、什器の配置を変更して対応した。 ・大きな苦情は発生していない。
その他特筆すべき取組	・貸室での講座の発表をホールで実施したり、ギャラリーで天体に関するパネル展を開催し、プラネタリウムの観覧につなげたりするなど、複合施設内で連携した事業を実施し、利用者数の増加を図った。

ウ 市による状況分析

利用者のニーズにきめ細かに対応し、施設の特長を生かした事業を展開した。利用者満足度も高い評価を得ている。

2 管理運営状況

(3) 収支

ア 収支状況

(単位:円)

■ 指定管理業務

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	【参考】令和5年度(予算)
指定管理者名		JTBコミュニケーションデザイングループ	JTBコミュニケーションデザイングループ	JTBコミュニケーションデザイングループ	JTBコミュニケーションデザイングループ	JTBコミュニケーションデザイングループ
収入	指定管理料	170,396,000	170,396,000	170,396,000	150,998,968	150,998,968
	利用料金	29,268,296	37,407,306	64,323,204	62,057,409	71,794,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他	17,989,832	24,869,029	9,381,758	33,299,741	26,388,801
合 計		217,654,128	232,672,335	244,100,962	246,356,118	249,181,769
支出	人件費	106,554,412	104,487,350	106,851,100	110,921,278	103,293,700
	委託料	79,163,964	73,130,217	79,649,504	79,907,314	80,872,600
	総支出額に占める委託料の割合	31.4%	30.2%	30.0%	29.9%	32.5%
	修繕費	1,260,330	1,038,180	1,113,074	2,178,924	1,720,000
	光熱水費	27,711,615	29,063,999	41,958,124	37,803,332	29,300,000
	その他	37,768,749	34,758,128	35,785,640	36,666,772	33,995,469
合 計		252,459,070	242,477,874	265,357,442	267,477,620	249,181,769
収支差額		-34,804,942	-9,805,539	-21,256,480	-21,121,502	0
(市への納付金の額)		—	—	—	—	—
(徴収委託の場合の徴収額)		—	—	—	—	—

■ 自主事業 (有)

(単位:円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	【参考】令和5年度(予算)
収 入	7,096,745	4,789,780	6,119,225	5,193,123	13,578,460
支 出	18,282,321	8,030,615	15,110,447	13,154,967	17,874,779
収支差額	-11,185,576	-3,240,835	-8,991,222	-7,961,844	-4,296,319
(市への納付金の額)	2,338,771	8,891	8,891	8,891	8,891

イ 取組状況

経費の縮減、経理事務等	- こまめな消灯など可能な限り節電に取り組み光熱費抑制に努めたが、人件費、物価の高騰、光熱費の高騰の影響もあり収支差額はマイナスが続いている。 - その他収入に堺市光熱費高騰に伴う指定管理者管理運営継続支援金4,549千円を含む。
-------------	--

ウ 市による状況分析

光熱費は令和4年度よりは支出減となったが依然高騰が続き、人件費の単価増や修繕費の増加により、収支差額はマイナスとなっている。

3 目標管理、総合評価

(1) 目標管理

ア 仕様書で定める目標の達成状況

■適正な管理運営の確保

指標	目標	実績
プラネタリウム番組数	20本以上	24本
学習投影開催件数(年間実施回数)	155回以上	157回
学習投影開催件数(堺市小学校参加率)	70%以上	57.6%
施設稼働率(年間日数稼働率)	60%以上	56.0%

■利用者サービスの向上

指標	目標	実績
利用者の満足度	97%以上	97.7%
中文化会館利用者数	162,000人以上	165,210人
プラネタリウム観覧者数	44,000人以上	36,571人

■収支

指標	目標	実績
利用料金等収入	57,000千円以上	62,057千円

イ 市による状況分析

コロナ禍を過ぎ、中文化会館、プラネタリウムとも利用者数は増加してきているが、一部の指標において目標に達していない。プラネタリウム学習投影の堺市小学校参加率を向上させることが課題である。

(2) 総合評価

目標の達成状況のほか、管理運営状況も含め、以下の評価基準により総合的に評価を行う。

	指定管理者	所管課
評価	B	B
評価の理由	コロナ禍からの回復がみられ、ホール、ギャラリー、プラネタリウム等の利用者数が増加した。一方、利用料金収入は令和4年度を下回っており、今後収入増に向けて取り組む。	各指標の目標を概ね達成しており、また、利用者アンケートにおいても高評価を得ていることから、概ね仕様書で定める水準どおりの管理運営がなされている状況である。
今後の取組	施設設備の適切な維持管理とあわせて、利用料金収入の増加に向けて、情報発信、魅力ある講座・催の実施、複合施設内の連携に努める。	引き続き、施設設備の適切な維持管理や利用者の安全確保に努め、新規利用者の獲得や稼働率の低い諸室の利用向上に向けた新たな取組の実施により、利用料金収入の増加や、高評価の利用者満足度の維持を図りたい。

評価基準	A 仕様書で求める目標や水準を上回る管理運営がなされ、優良であるもの
	B 概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の管理運営がなされ、適正であるもの
	C 管理運営が仕様書で求める目標や水準を下回っており、努力が必要であるもの
	D 管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要であるもの